

アクモスグループの新鮮情報をお伝えするIRマガジン

ACMOS HIGHWAY

アクモス ハイウェイ

Top Message

変革の第一歩を踏み出す

特集

長期ビジョンと新中期経営計画

アクモスジャンクション

助成金を利用した新分野へのチャレンジ
人を育てる「ウィングシステム」

アクモス 株式会社

証券コード：6888

2016
Vol.13

アクモスグループは、お客様に感動していただける
プロフェッショナルなサービスを提供いたします。

ITソリューション事業



ネットワーク構築

ITインフラを安全かつ確実に稼働させるためのトータルソリューション提供

- ・サーバー環境や大規模ネットワークの構築・保守
- ・セキュリティ関連の診断 など



システム運用監視

システムの安定運用によりお客様の業務遂行をバックアップ

- ・24時間365日対応の客先常駐型運用 など



SI・ソフトウェア開発

お客様の情報に関わるITソリューションを提供

- ・一般企業の業務システム
- ・自治体のITソリューション
- ・宇宙関連システム
- ・消防通信指令システム など



医療情報システム

病院内システムの導入から運用管理までをサポート

- ・コンサルティング
- ・システム構築
- ・運用管理 など



地図情報提供サービス

地図に関わる情報やシステムの提供

- ・地図デジタルデータの入力
- ・一般企業や自治体の地理情報システムの構築
- ・GISエンジンの販売
- ・インターネット地図情報配信 など

ITサービス事業



情報処理サービス

お客様の情報に関わるITサービスを提供

- ・データ入力
- ・マークシート・WEBでのアンケート制作 (印刷) から集計
- ・試験採点や選挙集計
- ・オンデマンド印刷・封入発送作業 など

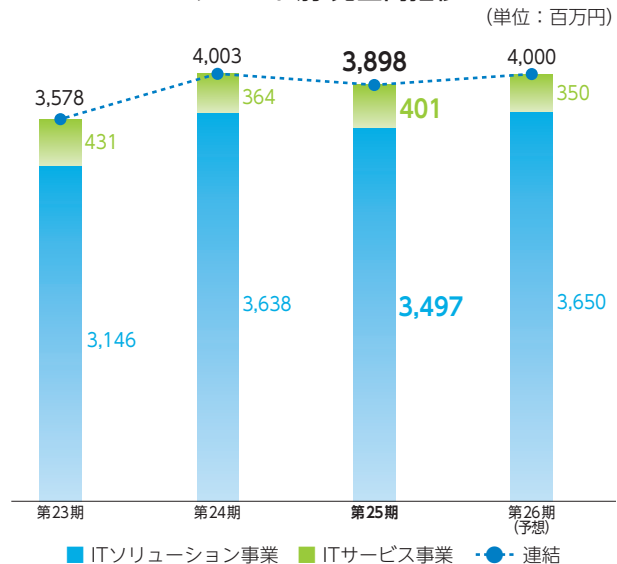


ビジネスプロセスアウトソーシング

お客様の業務効率化とコスト削減を実現し、ビジネスプロセスを最適化

- ・ストレスチェック関連サービス
- ・コールセンターや事務局の運営 など

セグメント別 売上高推移



時流に適応した新規サービス・事業の創出にも
注力しています。

ITソリューション事業

クラウドソリューション『SYMPROBUS Cloud』

クラウド導入時の構築・運用管理をトータルにサポートするソリューション。文書管理、アンケート、緊急メール、Webフィルタリング、マイナンバー管理といったアプリケーションサービスも提供しています。

マイナンバーをセキュアに管理するクラウドサービス『SYMPROBUS SecureNum』

情報漏えい対策としてファイル秘密分散技術を用いた、セキュアなマイナンバー管理サービス。マイナンバー「取得」に向けた準備から「利用・提供」及び「保管・廃棄」まで、ITを活用して安全に対応します。

消防通信指令システム『SYMPROBUS Fシリーズ』

緊急通報の受付を行う消防本部／消防署向けのシステム。消防活動において必要な情報を迅速・確実に提供し、安心・安全な社会づくりを支えます。



森林業務支援システム『GEOSIS FOREST』

森林ICTプラットフォームの構築を支援するシステム。地域の森林整備や林業振興に必要不可欠な各種森林情報を、GIS (地理情報システム) 上で一元管理することにより、森林管理の効率化・高度化が可能となります。

ITサービス事業

中小規模事業者向けストレスチェックパッケージサービス

10年以上にわたり行ってきた大手EAPサービス企業のストレスチェック関連業務のノウハウを活用した、中小規模事業者向けのストレスチェックパッケージサービス。主流のWEB形式だけでなく、紙のマークシート形式での提供も可能です。

代表取締役会長 兼 CEO

飯島 秀幸

変革の第一歩を踏み出す

第25期を振り返って

第25期は中期経営計画（2013/07～2016/06）の最終年として「創造」をテーマに取り組み、マイナンバー管理クラウドサービス「SYMPROBUS SecureNum」やストレスチェックパッケージサービスの提供を開始いたしました。また、助成金を活用し、フィールド業務支援システムや無人航空機（ドローン）を利用したがけ崩れ危険箇所監視システムの試作開発を行いました。これらのシステムはすぐには業績に寄与いたしません、今後も研究開発を重視してまいります。

第25期の売上高は3,898百万円（前期比2.6%減）、営業利益は111百万円、経常利益は121百万円と、前期の赤字からは脱却できましたが、まだまだ収益力の面では課題が残っています。

第25期はアクモス株式会社単体においてマネジメントシステム「ウィングシステム」を導入しました。部門別採算管理をきめ細かく行い、社内で数値を共有して透明化を図ることによって、採算意識の徹底を目指しました。

第26期 変革の第一歩を踏み出す

第26期は、長期ビジョン2025の最初の3年間となる中期経営計画Ⅰ（2016/07～2019/06）の初年度となり、専門特化型ビジネスに向けた第一歩を踏み出す年です。

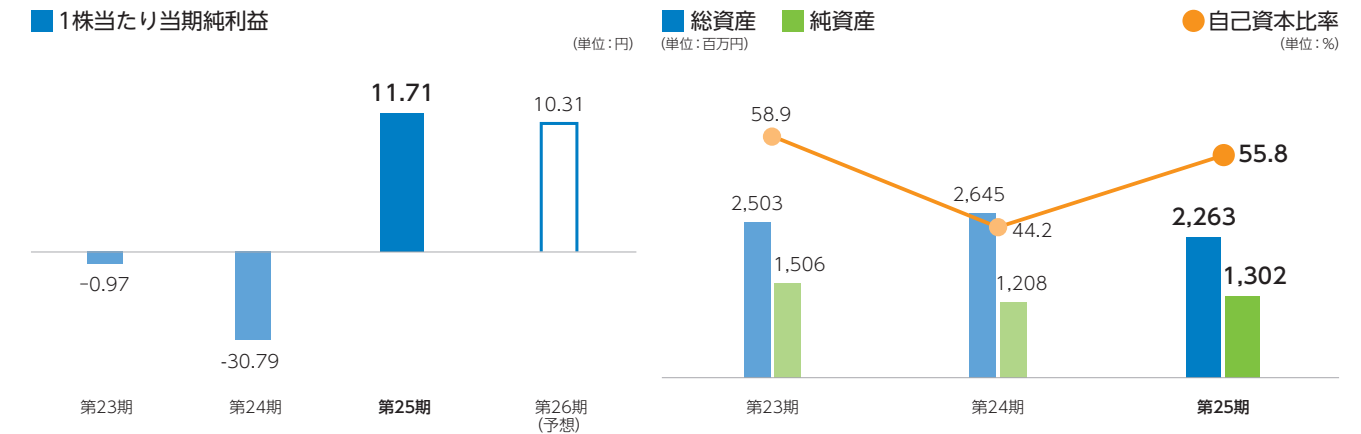
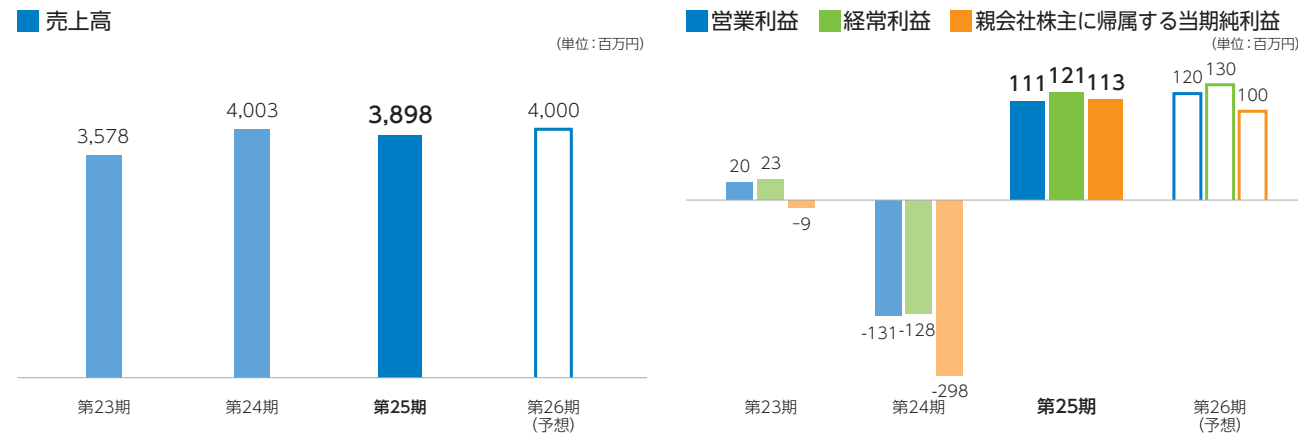
グループ各社の個性を活かし、

- ・情報セキュリティでは、お客さまのパートナーとなれるように
- ・空間情報では、自治体のお客さまのコーディネーターとなれるように
- ・BPOワンストップでは、ストレスチェックなどに関してお客さまに一貫したサービスができるように

各専門分野を極めてまいります。

部門別採算制度ウィングシステムは、第26期から全グループ会社への導入を進め、グループ全体の社員の経営参加意識を高めて内からの改革を進めてまいります。

当社は、長期ビジョン2025及び中期経営計画Ⅰ（2016/07～2019/06）の実現に向け、代表取締役をCEOとCOOの2名体制とし、経営体制の最適化を図ってまいります。グループ経営全般はCEOである私が、アクモス株式会社単体の業務執行はCOOである清川明宏が、それぞれ責任分野を分けることで、よりきめ細かい施策を実行してまいります。また、コーポレート・ガバナンスの一層の充実を目指し、経営の機動性と効率化を図るため、監査等委員会設置会社に移行いたします。



※自己資本比率＝自己資本（純資産－新株予約権－非支配株主持分）／総資産



代表取締役社長 兼COO
清川 明宏

代表取締役会長 兼 CEO
飯島 秀幸

対談 長期ビジョン2025 ～ICTサービスで持続的な成長を実現～

■長期ビジョン2025は9年後のグループの姿をイメージして策定

飯島 長期ビジョンは9年後の2025年を到達年度に目指すべき事業の方向性をビジョンとして定めたものです。長期間の成長を測る経営指標として、株主資本利益率（ROE）を採用し、2025年6月期のROE15%の達成を目指します。（⇒7ページ「特集 長期ビジョンと新中期経営計画」参照）

今回、当社グループが社会に貢献する事業領域をICTに絞りました。これからは専門特化したICTの領域を極めていきたいと考えております。

専門特化する領域

お客様

自動車、医療、健康、教育、自治体

サービス

情報セキュリティ、空間情報、BPOサービスのワンストップ化

清川 今後ICTの利活用がさらに進み、新たなビジネスや新たな産業の創出が期待されるなか、

専門に特化しつつ、アクモスグループならではのサービス&ソリューション提供を目指したいと思います。

■中期経営計画Ⅰ テーマは「変革」

飯島 専門特化する分野で価値のあるサービスを生み出し、お客様に提供するには、様々な変革が必要だと思います。事業変革は言うまでもありませんが、部門別採算制度ウィングシステムにより、当社グループ全体の変革を社員とともに目指す3年間になると考えております。

清川 変革に向けた航海には困難もあると思います。まずは、各年度の事業計画を着実に実行し、中期経営計画の達成、長期ビジョン2025の実現に向けて、舵を取ってまいります。

飯島 専門性の高い人材の育成も変革には不可欠と考えていますが、変革を実現するために専門性の高い技術やサービスを有する企業、大学や研究機関も含めて、幅広いアライアンスを推進していきます。

清川 グループの中ではITソリューション事業の中核企業である当社単体事業の担う役割がこれまで以上に大きくなると思います。私は、既存事業分野の利益を確保しながら、情報セキュリティ関連業務を軸に専門性のあるICTサービスを提供できる会社へと変革を進め、お客様の「セキュリティパートナー」と呼ばれる企業を目指したいと考えております。

飯島 第26期からの3年間は、様々な変革を仕掛けつつ、確実な収益性の改善を目指す3年間になると考えております。2019年6月期には、売上高45億円、営業利益2.7億円、ROE12%以上の達成に向けて、グループ各社とともに取り組んでまいります。

■株主還元について

飯島 当社は「株主のみなさまへの持続的な利益還元」を基本方針の一つとして取り組んでまいりましたが、第25期については連結、単体ともに1億円強の黒字となったものの、第24期が大幅な赤字となった影響で、まことに遺憾ながら、配当をもって報いることができませんでした。第26期は、専門特化型モデルへの事業変革元年となります。部門別採算制度ウィングシステムの定着と相まって、さらなる持続的成長を目指して事業を進めてまいります。株主のみなさまには、引き続き変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

長期ビジョン 2025、中期経営計画 I（2016/07-2019/06）を策定

ICTの利活用がさらに進み、IoTやビッグデータ、AI等の技術が新ビジネスや新たな産業の創出につながると期待されている将来の我が国において、当社グループが社会に必要とされる企業であり続けるため、2025年6月期までに取り組むべき事業の方向性を示すため、「長期ビジョン2025」を制定し、「長期ビジョン2025」の最初の3年間に実行する計画、「中期経営計画 I（2016/07-2019/06）」を策定しました。

長期ビジョン2025

私たちは輝くICTサービスで社会の向上に貢献します。

目指すべき方向性

1. アクモスグループは、きらりと光るICTサービスを提供して持続的な成長を実現します。
2. アクモスグループは、個性豊かな企業集団を目指します。

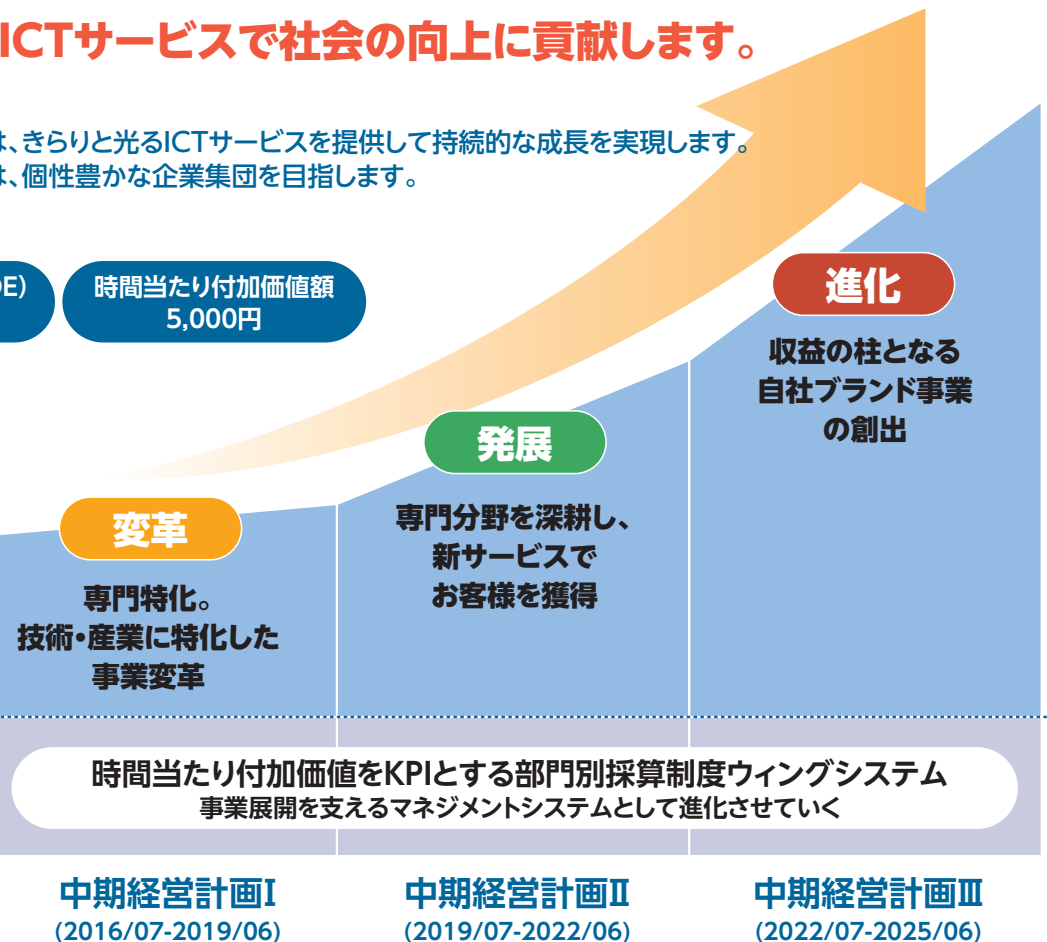
長期数値目標

株主資本利益率(ROE) 15%

時間当たり付加価値額 5,000円

持続的成長
プロセス

マネジメント
システム



中期経営計画 I（2016/07-2019/06）

変革

産業や技術分野等特定の対象を深耕し、当社グループの技術を生かしたソリューション、サービスを提供する専門特化による事業変革を進めます。

事業戦略

専門特化による顧客創造、お客様との
パートナーシップ醸成を目指す

新規事業
顧客創造

専門特化

部門別
採算管理

収益改善

情報セキュリティ対応強化
(ネットワーク・データ・デバイス)

BPOソリューション拡張
(働く人の健康、教育)

空間情報の利活用
(自治体)

業種特化型ICTサービス
(自治体、自動車、医療)

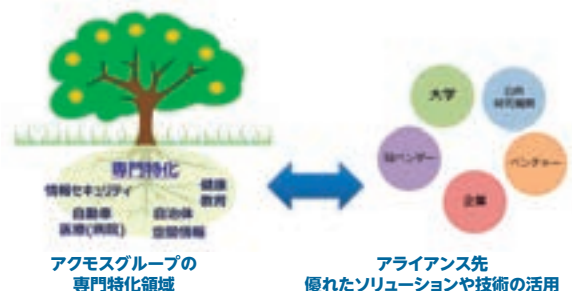
ネットワークインテグレーション
システムインテグレーション

既存分野
運用・監視

ITサービス

オープンイノベーション志向による
アライアンス推進

専門特化の対象となる分野では、
アライアンスを活用し、新サービスの創造を促進



組織戦略

部門別採算管理の浸透、全員参加経営の実現による付加価値増大を目指す

・部門別採算制度ウィングシステムのグループ企業への拡大

人材育成

専門性の高い多様な人材の育成を目指す

・事業戦略に沿った資格取得の推進
情報セキュリティ関連資格、医療情報技師、技術士、測量士など

経営計画 KPI

	第26期 2017年6月期	第27期 2018年6月期	第28期 2019年6月期
売上高	4,000百万円	4,200百万円	4,500百万円
営業利益	120百万円	210百万円	270百万円
経常利益	130百万円	220百万円	290百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	100百万円	190百万円	230百万円
株主資本利益率 (ROE)	7%	12%	12%以上
時間当たり付加価値	3,000円	3,200円	3,300円

※当社では時間当たり付加価値を以下のように定義しています。
(収入－労務費以外の経費) ÷ 総稼働時間 = 時間当たり付加価値

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位：千円)		
科 目	第24期 2015年6月30日現在	第25期 2016年6月30日現在
資産の部		
流動資産	2,209,814	1,828,891
固定資産	436,060	434,480
有形固定資産	205,411	225,468
無形固定資産	118,346	83,379
投資その他の資産	112,303	125,632
資産合計	2,645,875	2,263,371
負債の部		
流動負債	1,297,114	916,370
固定負債	140,257	44,418
負債合計	1,437,371	960,789
純資産の部		
株主資本	1,157,864	1,262,210
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,176,282	1,176,282
利益剰余金	△ 657,756	△ 553,410
自己株式	△ 53,911	△ 53,911
その他の包括利益累計額	11,190	541
非支配株主持分	39,449	39,830
純資産合計	1,208,503	1,302,582
負債純資産合計	2,645,875	2,263,371

Point 1

資産の部

資産は、前期末に比べ382百万円減少しています。

流動資産の減少の主な理由は、現金及び預金の減少283百万円、商品の減少61百万円、売掛金の減少19百万円によるものです。

無形固定資産の減少の主な理由は、のれん40百万円の減少によるものです。

Point 2

負債の部

負債は、前期末に比べ476百万円減少しています。

流動負債の減少の主な理由は、買掛金の減少97百万円、製品保証引当金の減少114百万円、短期借入金の減少40百万円、未払金の減少31百万円によるものです。

固定負債の減少の主な理由は、長期借入金の減少108百万円、退職給付に係る負債の減少20百万円によるものです。

Point 3

純資産の部

純資産は、前期末に比べ94百万円増加しています。

純資産の増加の主な理由は、親会社株主に帰属する当期純利益113百万円、その他有価証券評価差額金の減少10百万円によるものです。

■ 連結損益計算書

(単位：千円)		
科 目	第24期 (自 2014年7月 1日 至 2015年6月30日)	第25期 (自 2015年7月 1日 至 2016年6月30日)
売上高	4,003,417	3,898,525
売上原価	3,087,582	2,770,467
売上総利益	915,835	1,128,058
販売費及び一般管理費	1,046,965	1,016,275
営業利益 (△損失)	△ 131,130	111,782
営業外収益	8,791	15,027
営業外費用	6,400	5,267
経常利益 (△損失)	△ 128,739	121,542
特別利益	—	20,453
特別損失	117,017	19,745
税金等調整前当期純利益 (△損失)	△ 245,756	122,250
法人税等	44,701	6,889
当期純利益 (△損失)	△ 290,457	115,360
非支配株主に帰属する当期純利益	8,154	1,768
親会社株主に帰属する当期純利益 (△損失)	△ 298,612	113,592

Point

連結損益計算書

消防通信指令システムのライセンス販売2件と公共系のクラウドを活用した情報ネットワーク構築案件の納品があったものの、前期に計上のあった消防通信指令システムの納品に係る売上が無くなったことから、売上高は3,898百万円と前期比で2.6%減少しています。

消防通信指令システムの案件については、当期に発生する見込みの納品後における現地対応や不具合対応の費用に対し、前期において119百万円の製品保証引当金を計上していましたが、追加作業の発生があり、12百万円を追加して製造原価に計上しました。

当期末においては不具合対応作業が継続することから製品保証引当金を4百万円計上しています。

■ 連結包括利益計算書

(単位：千円)		
科 目	第24期 (自 2014年7月 1日 至 2015年6月30日)	第25期 (自 2015年7月 1日 至 2016年6月30日)
当期純利益 (△損失)	△ 290,457	115,360
その他の包括利益	2,226	△ 10,648
包括利益	△ 288,230	104,712
(内訳) 親会社株主に係る包括利益	△ 296,385	102,943
非支配株主に係る包括利益	8,154	1,768

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)		
科 目	第24期 (自 2014年7月 1日 至 2015年6月30日)	第25期 (自 2015年7月 1日 至 2016年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	139,028	△ 2,817
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,046	△ 53,636
財務活動によるキャッシュ・フロー	256,021	△ 153,344
現金及び現金同等物の増加額	399,096	※△ 273,664
現金及び現金同等物の期首残高	1,077,179	1,476,275
現金及び現金同等物の期末残高	1,476,275	1,202,611

※株式会社エクスカルが、当期第2四半期末に連結除外となったことに伴う減少額△63,866千円を含んでおります。

Point

連結キャッシュ・フロー計算書

(営業活動によるキャッシュ・フロー)
税金等調整前当期純利益122百万円、棚卸資産の減少68百万円、減価償却費56百万円、のれん償却費40百万円の方、製品保証引当金の減少△114百万円、仕入債務の減少△97百万円、退職給付に係る負債の減少△20百万円、法人税等の支払額△28百万円、事務所移転費用引当金の減少△18百万円、事業譲渡益△15百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)
有形固定資産の取得による支出△50百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)
短期借入金の純減額40百万円、長期借入金の返済による支出108百万円によるものです。

助成金を利用した新分野へのチャレンジ

アクモスグループでは、中期経営計画（2013/07～2016/06）で掲げた「成長分野の取り込みを行い、時流適応型事業を創出する」という方針のもと、事業の進化を目指して、社会のニーズに合った新規事業創出への取り組みを進めてきました。

研究開発活動においては、開発を計画していたシステムが、国の政策に基づき国内外のニーズに対応したサービスや新規事業を創出するために革新的なサービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を支援する助成金に採択されました。助成金を活用して研究開発を進めることにより、第25期において2つのシステムの試作品を完成させることができました。

今後は事業化に向け、まずは試作品をベースに顧客へのヒアリングを行い、案件化や製品化の実現を図っていきます。



スマートデバイスを利用したフィールド業務支援システム
(アクモス株式会社)



無人航空機（ドローン）を利用した、がけ崩れ危険箇所監視システム
(ASロカス株式会社)



アクモス株式会社 ウィングシステム

当社では、小集団の部門別採算制度「ウィングシステム」を導入しています。ウィングシステムは、時間当たり付加価値を指標とし、時間当たり採算表を活用しながら採算管理を行っていくもので、“ウィング”と呼ぶ小集団に自らの経営を任せることにより、収益性向上を図るとともに、経営者意識をもった人材を育成しながら全員参加経営の実現を目指します。

ウィングシステムの導入は段階的に進めています。第25期は、ルールや仕組みの構築と実績採算表の作成、予定採算表の作成と月次PDCAを回すところまでを行いました。第26期からは、年度計画マスタープランを作成してそこから全社予算を作成し、マスタープラン・予定採算表・実績採算表を活用した月次PDCAを回していくことで全社の採算管理を行っていきます。

ウィングシステムの要となるウィングリーダーに対しては、毎期ウィングリーダー研修を行い、定期的にウィングの運営に対するフォローを実施しています。

2016年7月実施 ウィングリーダー研修

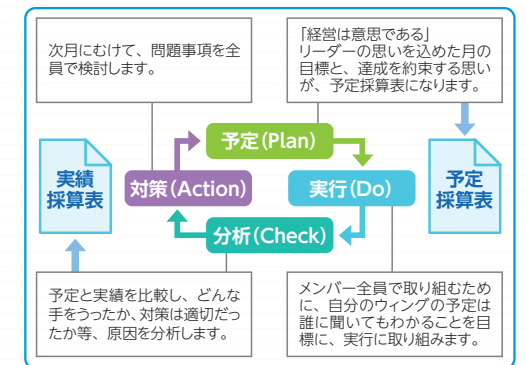
カリキュラム概要

- ・トップ講話「ウィングリーダーに求めること」
- ・ウィングシステムの基礎知識
- ・マスタープランの理解と活用
- ・ウィング運営計画作成
- ・ウィングミーティングの役割



ウィングシステムは、第26期からアクモスグループ各社でも導入されます。

アクモスグループは、長期ビジョン2025・中期経営計画I（2016/07～2019/06）のもとでウィングシステムを推進し、さらなる成長を目指していきます。



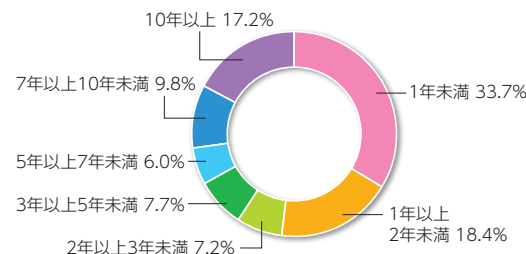
アンケート結果報告

2015年秋発行のアクモスハイウェイに同封の「株主さまアンケート」につきまして、多くのみなさまから貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

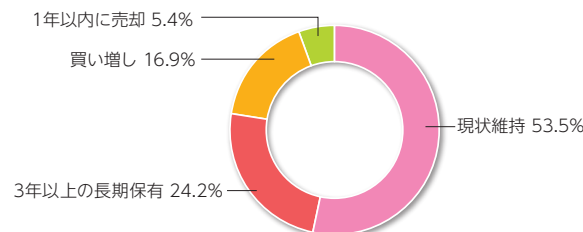
アンケート実施概要

実施期間：2015年9月25日～2015年10月31日
ご回答いただいた株主さま 707名 (全体の15.8%)

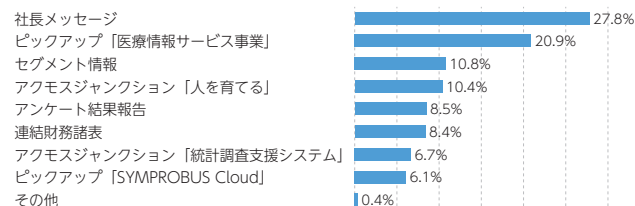
Q1 ▶▶▶ 当社の株式の保有期間



Q2 ▶▶▶ 今後の当社株式の保有についての方針をお聞かせください



Q3 ▶▶▶ 前回の「アクモスハイウェイ」で興味をもたれた記事をお選びください (複数回答可)



アンケートご協力をお願い

当社では、株主のみなさまとのコミュニケーション充実を図るため、毎年、株主さまアンケートを実施しています。いただいたご意見・ご要望は、経営やIR活動の参考とさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、個人情報保護等の観点から今回より個人情報の記載のないハガキとなっております。それに伴い、例年実施していた謝礼品の送付を廃止させていただきます。

アンケート締切日：2016年10月31日 (消印有効)

社会貢献活動報告

当社がフェアトレード商品の購入や募金を通して活動の支援を行っている特定非営利法人ピースウィンズ・ジャパンからレポートをいただきました。

ピースウィンズ・ジャパン (PWJ) ピースワンコ・ジャパンの活動について

いつもご支援を賜り、誠にありがとうございます。PWJが運営する「ピースワンコ・ジャパン」プロジェクトでは、現在約450頭の犬を保護し、里親さんを探しています。いただいたご寄付は災害救助犬の育成や捨て犬の保護・譲渡等のために活用させていただきます。

ピースワンコ・ジャパン

<http://peace-winds.org/peace-wanko/>



熊本地震の現場で活動する災害救助犬・夢之丞



施設で暮らす保護犬たち

会社概要 / 株式の状況

■ 会社の概況 (2016年 (平成28年) 6月30日現在)

商号	アクモス株式会社
設立	1991年8月23日
資本金	6億9,325万円
社員数	連結357名 (単体225名)
主な事業	・ITソリューション - IT基盤設計・構築 - SI・ソフトウェア開発 - システム運用・保守 - 業務系アプリケーション開発 - 地図情報提供サービス ・ITサービス - 情報処理サービス - ビジネスプロセスアウトソーシング

■ 役員の状況 (2016年 (平成28年) 9月27日現在)

代表取締役会長 兼 CEO	飯 島 秀 幸
代表取締役社長 兼 COO	清 川 明 宏
取締役専務執行役員	石 川 稔
取締役常務執行役員	深 作 耕 一
社外取締役 (常勤監査等委員)	西 山 達 男
社外取締役 (監査等委員)	柴 田 洋 一
取締役 (監査等委員)	金 子 登志雄

※第25回定時株主総会終了後の状況を記載しております。

■ 主な事業所

本社	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8 ユニゾ神田小川町三丁目ビル TEL：03-5217-3121
茨城本部	〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松2713番地7 TEL：029-270-5555
つくばオフィス	〒300-0847 茨城県土浦市卸町一丁目1番1号 関鉄つくばビル2F TEL：029-834-3391

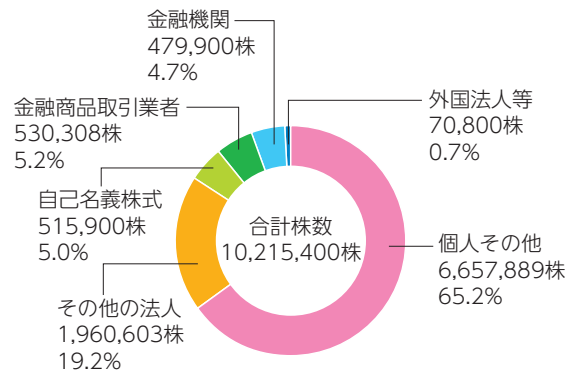
■ 株式の状況 (2016年 (平成28年) 6月30日現在)

発行可能株式総数	32,300,000 株
発行済株式総数	10,215,400 株
議決権を有する株主数	5,087 名
上位10名の株主の状況	

株主名	持株数 (株)
コンセーユ・ティ・アイ株式会社	1,905,000
飯島秀幸	1,076,400
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	288,000
アクモスグループ社員持株会	280,000
株式会社SBI証券	249,900
日本証券金融株式会社	191,900
金子登志雄	96,000
松山秀夫	82,700
モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社	72,200
植山孝一	50,000

※自己株式を除く発行済株式総数の上位10名の株主を記載しております。

所有者別株式分布状況



■ 株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月下旬
公告方法	電子公告 http://www.acmos.co.jp/ir/brief_note.html (電子公告により行なうことが事故その他やむをえない事情によりできない場合には、日本経済新聞に掲載して行ないます。)
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

■ 株式事務関係のお問い合わせ

お問い合わせ先・ 郵便物送付先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部テレフォンセンター 電話0120-232-711 (通話料無料) 受付時間 土日祝日を除く 9:00-17:00 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
--------------------	--

- 株券の電子化に伴い、株主様の住所変更、その他の各種手続きについては、原則として、証券取引口座を開設されている証券会社等で承ることになっております。
- 特別口座に記録された株式の各種手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレフォンセンターにお問い合わせください。



本社
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8
ユニゾ神田小川町三丁目ビル
TEL : 03-5217-3121
FAX : 03-5217-3122



JR東海駅より車で10分

茨城本部
〒319-1112
茨城県那珂郡東海村村松2713番地7
TEL : 029-270-5555
FAX : 029-270-5531



アクモス 株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8 ユニゾ神田小川町三丁目ビル
TEL : 03-5217-3121 FAX : 03-5217-3122 <http://www.acmos.co.jp/>

**UD
FONT**

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境に配慮した用紙、インクを採用
しています。



証券コード : 6888

編集・発行 アクモス株式会社 経営企画管理部
制作 宝印刷株式会社